

連合東京 第18回定期大会 会長代行挨拶

2023年10月18日
会長代行 佐藤 重己

連合東京で会長代行をしております佐藤 重己です。現在、会長職を職務代行しておりますが、いまなぜ会長不在であるのか、三役・執行委員の皆さまにはこの間の会議にて経過を説明していましたが、代議員の皆さまには説明が不足していると思いますので、少し説明をさせていただきます。

杉浦前会長が本年6月27日に会長職を退任され、私が6月28日より職務代行として役割を務めております。杉浦前会長の退任につきましては、議論を重ねた結果の退任であります。詳細について私からは説明を省略いたしますが、その間の会長職をどうするのかという課題に対し、三役会議・役員推薦委員会での議論を経て、定期大会まで残り3か月少々ということもありましたので、案のひとつでありました「臨時大会開催し新会長を選出する」ということでなく、「職務代行を任命する」ということで確認がされました。そのため、本日この場で私が代表挨拶をいたしますことをご了承いただければと思います。

本日は、大変お忙しい中、本定期大会にご来賓として連合より芳野 友子会長、後ほど到着をされます潮田 勉東京都副知事、そして、連合東京の政策実現に日頃よりご支援いただいている各政党から、立憲民主党東京都総支部連合会 手塚 仁雄幹事長、国民民主党東京都総支部連合会 磯崎 哲史会長、都民ファーストの会 森村 隆行代表、また日頃お世話になっております労働関連団体、一般社団法人東京労働者福祉協議会より大塚 敬章会長、中央労働金庫東京都本部より座光寺 成夫常務理事、こくみん共済coop 東京推進本部より岡本部長にもご臨席いただいております。

さて、まずは安全についてお話いたします。

先月、八重洲の建設現場で起きた鉄骨崩落事故は、残念ながら2名の作業員を亡くし、3名負傷という痛ましい事故でありましたので、皆さまの記憶に新しいと思います。一昨日も私たちの仲間の工場のガス爆発事故や、二酸化炭素漏れによる作業員の救急搬送など、一つ間違えれば大きな災害に繋がる事案も多く発生しております。

働く仲間の尊い命が失われることは断腸の思いであります。そうならないよう皆さんの職場でも「安全最優先」で、特段の配慮、取り組みをされていることと思いますが、安全に特効薬はありません。皆さん一人ひとりが、労使一体となり「ゼロ災害」達成に向けた取り組みを実直に進めることが重要であります。

私は昔から常々、訴えていることがあります。働く者は、皆、「行ってきます」と家を出たならば、必ず「ただいま」と、無事に家に戻らなければなりません。家族が笑顔でずっといられるように、安全に対する取り組みを連合東京としましても、継続的に取り組んでまいります。

さて、連合東京 2024～25 年度運動方針（案）のスローガンを「連帯 共助 平和 ～社会を変える組織力の結集 ところをつなぐ運動の推進～」としました。簡単にお話すると、1つ目の、社会に広がりのある運動の推進という項目は、従来から取り組みをしている「組織拡大・強化の取り組み」を継続的に実施していこうというものです。2つ目は、政策・制度要求を通じて「働くことを軸とする安心社会の実現」を目指すというものです。3つ目以降も、春闘、政治活動、男女平等・ジェンダー平等、平和・人権、財政と従来から継続的に取り組んでいる大切な活動を記載しております。その活動の中身を吟味して、時代にあったものへと変えていくことが重要あると考えております。

1点だけ取り上げますと、春闘についてです。10月5～6日に開催された連合定期大会で、芳野会長がご挨拶されておりましたが、30年ぶりの高水準で賃上げが実現をしたけれども、「この波を今年だけで終わらせてはいけない」ということです。これはこの秋に各地で開催されているそれぞれの産別大会でも代表者の方々が口を揃えて訴えています。私もその通りだと思っています。このことは、政府、経済界とも共通の認識となつて、結果、「政労使の意見交換」の場が設定され、大企業だけでなく中小企業でも賃上げが実現できるように、サプライチェーンにおける原材料費および労務費の価格転嫁の必要性が確認された結果であると言われております。

よく卵が先か鶏が先かの議論と同様に例えられますが、賃上げが先か物価上昇が先かを問われれば、賃金が先に決まっています。物価が先に上昇したら干上がってしまう世帯が多く生じてしまいます。まずは賃金アップ、それから価格転嫁です。

昨日から報道されておりますが、連合はこれから春闘方針（案）を示します。しかし春闘の交渉は各産別が行います。ではなぜ、連合が春闘の旗を振るのか。私なりの解釈で恐縮ですが、連合方針をベースに各産別が要求案を作り上げ、労使交渉を重ねる。このことは川の源流・上流だと考えています。その川が流れていくと、やがて他の川と合流し、太く中流域となり、河口付近では大河となる。産別縦が川であるとするならば、地方連合会が横の支流となつてどんどんと川を太くしていく。連合東京のような地方連合が中流域で川を太くしていき、ブロック地協・地区協が、河口または海のように面を広げていく。そこに社会の波を作り、国を動かす。私たち地方連合会の役割は、その大きな「うねり」を作るために、大変重要な役割であると考えています。社会の大きな「うねり」を作るために、誰も取り残さない共助・包摂の活動が必要になってくるのです。

そして最低賃金しかり、ジェンダー平等しかり、子ども・若者の貧困、外国人対策、すべての人を守ってこそ、社会が私たちを認め、大きな波・うねりが起きるのだと思っています。災害が発生すれば、すぐ駆けつけ、それぞれお互いができることをして助ける、そうしたことができるのが、連合、とりわけ地方連合会だと思っています。

これも芳野会長が大会挨拶で触れておられました。「連合は、地方連合会の取り組みがあるからこそ、全国津々浦々に連合の旗を立てることができる。それによって連合の存在価値を生み出していると強く感じています。地方連合会の皆さまの取り組みが連合そのものであり、皆さまのご努力に心から感謝を申し上げたい。」と発言をされました。

私からも、構成組織、単組、地方連合会、それぞれの立場で活躍されている本日お集りの皆さまに、この一年間、現場で懸命に取り組んでいただいたことに対しまして、心からの敬意と感謝を表したいと思います。本当にありがとうございます。

結びになりますが、10月も中旬となり先日までの暑さが嘘のように過ごしやすくなりました。私が通勤する電車から見える山々もはっきりと稜線まで見えるようになってきました。空気がきれいに澄んでくると遠くまで見えます。本日の大会以降、連合東京は新体制となります。連合東京も風通しを良くして、お互いが良く見える健全な体制を維持していかなければなりません。足元ばかりに目を向けず、たまには遠くに視線を移し、俯瞰し立ち止まって考えることも必要になってくると思います。ぜひ新体制に対しましても、これまで同様のご支援とご協力をお願いいたします。

また、これまで役員として活躍いただき本日退任される方々に改めて感謝を申し上げますとともに、新体制が至らない点はビシビシと指摘を頂きながら、連合東京に集う力を一つに結集し、心をつなぐ運動が、より一層広がっていくように、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、連合東京を代表しての挨拶といたします。

ともに頑張りましょう！ ありがとうございました。

以上